

1. 運営体制・組織図

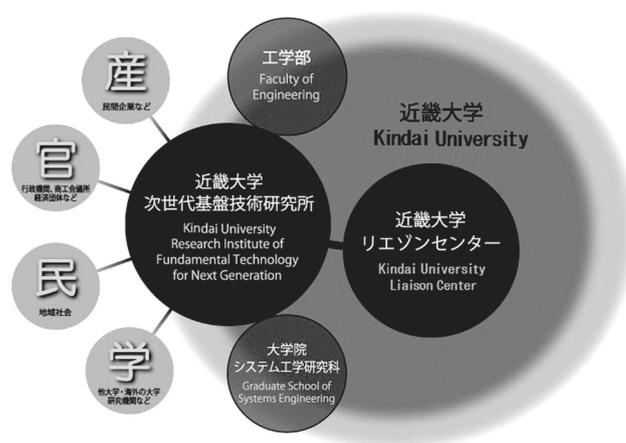
■ 研究所の概要

次世代基盤技術研究所は、1996年（平成8年）に工学部に設立された工業技術研究所を発展的に改組し、2010年（平成22年）新設された。本研究所の設置目的は、次世代基盤技術に関する総合的な調査及び教育を行い、持続可能な社会を構築できる技術開発と地域社会の技術の発展に寄与することである。

■ 研究所の位置づけ

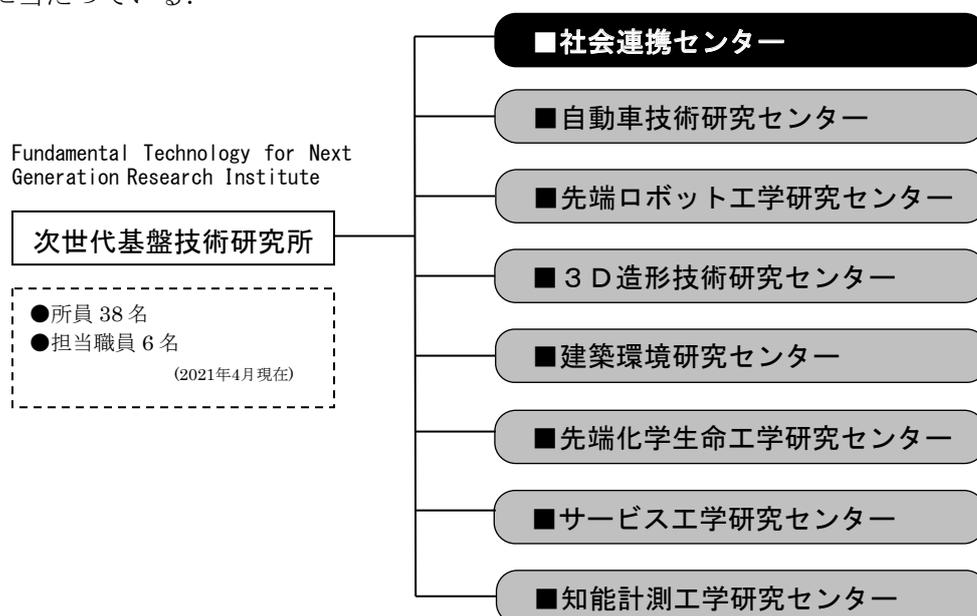
近畿大学は、14学部48学科、法科大学院、大学院11研究科、18の研究所等、2つの短大・併設学校18校園、さらに2つの総合病院を持つ私立総合大学である。

次世代基盤技術研究所では、近畿大学リエゾンセンターとの連携を通じて、近畿大学全体の研究資産を提供できる。



■ 研究所の体制

現在、本研究所は、工学部等の所員38名で構成されており、加えて職員6名が業務に当たっている。



■ 研究センターの紹介

本研究所は、地域企業や研究機関等の方々との連携窓口としての「社会連携センター」と、研究を推進する7つの「研究センター」から構成されている。

(1) 社会連携センター

産学官連携のワンストップ窓口として共同研究や技術相談の受付を行うとともに、工学部の研究機能の強化支援などを行っている。

(2) 自動車技術研究センター

基幹産業である自動車産業を支える広島地域の学の研究拠点として、地域連携による次世代自動車技術の研究開発を実施している。

(3) 先端ロボット工学研究センター

次世代ロボット技術を開発するとともに、さまざまなロボット先端技術の実用化を目指している。

(4) 3D造形技術研究センター

NEDOプロジェクト「積層造形部品開発の効率化のための基盤技術開発事業」(2019～2023年度)を実施するなど、金属3Dプリンタ開発の研究拠点として活動している。

(5) 建築環境研究センター

「広島に地域に適した木造住宅の研究」として、太陽熱・雨水・風など自然エネルギーを利用した建築環境の研究を行っている。

(6) 先端化学生命工学研究センター

広範な先端化学技術を駆使して、生体材料、医薬品、機能性食品の開発につながる研究に取り組んでいる。

(7) サービス工学研究センター

科学的・工学的手法を用いたサービス産業の生産性向上につながる研究に取り組んでいる。

(8) 知能計測工学研究センター

情報処理技術を駆使したアプリケーション開発や環境・生体の情報をセンシングして解析する技術の開発に取り組み、さらに検出したデータを価値あるインテリジェンスに変えるAI技術とその応用技術の開発に取り組んでいる。